

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 9時55分）

---

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問の前に申し上げておきます。質疑、答弁は的確にわかり易く要領よく行ってください。通告以外の質疑はできません。また、関連質疑は議長の許可を受け質疑を続けてください。

質疑は一括質疑と一問一答方式、どちらかを述べてから質疑に入ってください。固有名詞等は発言に十分注意をしてください。

なお、傍聴者の皆さんに申し上げます。議場内ではお静かにお願いいたします。

---

◎一般質問

○議長（稲葉昭宏君） 日程第6、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

---

◇ 藤 井 要 君

○議長（稲葉昭宏君） 通告順位1番、藤井要君。

（1番 藤井 要君 登壇）

○1番（藤井 要君） 一般質問を行う前に2月、東日本を襲った記録的な大雪は交通網を麻痺させ、住民生活の安全を脅かし、群馬、長野、山梨などでは大雪がビニールハウスを押し潰し、農産物の産地に深い爪痕を残してしまいました。被害にあわれた方々が通常どおりの生活ができることを願うとともに国より手厚い支援がされることを願っています。

また、松崎町の観光イベントであるトレイルジャーニーが、自然相手とはいえ、雪の影響で中止になったことは、非常に残念であります。代替イベントの開催を望むところであります。

それでは、一般質問を行います。

今回私の質問は、急激な人口減少が予想される中で、「わが町の教育関連施設の建設、維持管理対策、子育て支援の取り組みについて」を中心に質問いたします。

2013年3月に発表された日本の地域別将来推計人口によりますと、松崎町の人口は6年後の2020年には6543人、2025年には5985人、2040年には4448人と推計されています。西伊豆町

では2040年は4540人となっています。

松崎の人口が2013年12月末では7430人ですから、2040年まで毎年115人ほどの人口減少となっていくます。

一方、少子化ですが、2013年12月末で0歳から4歳までは187人です。6年後の2020年には164人、11年後の2025年には137人余りと予測されています。このような状況の中で、当町は27年度に幼稚園舎新築と私立保育園建替えを計画しています。

以前一般質問で私は「幼稚園と保育園の統合ができないか。廊下を隔てた一つのもとで、幼稚園、保育園ができないのか。認定子ども園の建設は。」などと質問もしてきました。

町長は、私立との2園体制にこだわり続けています。平成26年度の園児は、聖和保育園児3歳から5歳児、58人。0歳から2歳児、21人。計79人であります。中川園、35人。岩科園、11人。計46人が松崎幼稚園児と予定されています。ちなみに、今年度入園者は、中川園、11人。岩科園、2人。聖和、17人の予定です。10年後、6対4の入園比率で予想しますと、3歳から5歳児までの聖和保育園児45人、松崎幼稚園児32名となります。

人口減少が進み、幼稚園が存在しない市町村が急激に増加しており、人口5000人を割り込むと、現状でも3分の2の市町村に幼稚園がないと言われています。過疎地域の人口構造によっては、幼稚園の維持は厳しくなると言われています。

町長、町長はこのような状況の中でも2園体制にこだわるのですか。将来を見据えた対応を考えることができないのですか。中学校の統合、小学校の統合後、廃校が利用されないままだめになっていく現状をどのようにお考えなのでしょうか。園舎新築と聖和保育園の建設における建設場所、規模などの実施計画の明快なる回答をお願いいたします。

次に、27年4月に施行される「子ども・子育て支援制度」について伺います。国は、少子化にあえいでいる現状を社会保障と税の一体改革の中で世代を超えて社会に子育てを支えていく考え方に変わったと思いますが、わが町では今までどのような取り組みを行ってきたのか。また、新制度では保育が必要な家庭だけでなく、すべての家庭を対象に地域の実情に応じた支援を充実させるため、一時預かりや放課後児童クラブなどの事業を子育て支援として町が実施する事業に位置付けられています。

地域によっては、乳幼児健診会場での読み聞かせ、教員OBの現在版寺子屋、図書館の利用方法の変更など、実施しているところもあると伺っています。当町では、今後どのような事業を行っていくのか、具体的にお聞かせ願います。

次に、2011年3月の東日本大震災を受けて、松崎町立幼稚園は継続的2園体制後に統合す

るとの方針であります。津波の心配から幼稚園として使用されていない三浦、松崎園は現状ではどのような利用がされているのでしょうか。今後この2園をどのような方向で利活用するのか。また、廃校になっている中川、岩科、三浦小学校の利用については、1年前の一般質問時に「これから検討していく」とのことでありましたが、併せて回答願います。

次に、当町では1月13日を以て副町長が空席であります。町長は、2年の議員経験と4年間の町長経験から何でもできる齋藤行政には県下で一番小さな町での副町長はいらないとお考えかもしれませんが、防災対策事業、まつぎき荘の運営、子ども・子育て支援、観光、商業振興問題などたくさんの課題を抱えています。

町長の潜在能力は認めるところではありますが、当町の抱える多くの問題を早急に解決することからも、地方分権に重要な役割を担う基礎自治体の行政基盤の強化支援で県の人的資源を積極的に提携する必要があると言っている県の方針を受け、町長、ここはひとつ折れて、県派遣の副町長も考慮した中で早急に副町長を選任したらいかがでしょうか。副町長空席に対する今後の方針をお聞かせ願います。

これにて壇上からの一般質問を終わります。

○議長（稲葉昭宏君） 町長、演壇でお願いします。

（町長 齋藤文彦君 登壇）

○町長（齋藤文彦君） 藤井要議員の一般質問にお答えします。

1. 教育問題について。小さい1. 少子化時代の町の取り組みと役割。急激な人口減少が予想されるなかで、町は教育関連施設の建設、維持管理対策、子育て支援をどのように考えているのか。

①「園舎新築と聖和保育園の建設における建設場所、規模などの実施計画は」についてであります。

幼稚園は、議員もご承知のとおり平成24年度から津波浸水から逃れるため、将来1園統合するまでの暫定的に2園体制となっており、町としましてはできるだけ早期に統合するための用地を検討しております。

聖和保育園については、建物の老朽化が進んでいることから、県から対策を練るよう指導されているところであり、保育園からは現在の場所ではなく、平地に新築したいとの希望が出されております。

町としましては、幼稚園の統合問題や保育園の資金不足も踏まえて検討しておりますが、安心子ども基金を利用する場合、平成27年度中に完成しなければならないという条件があり

ます。

県の第4次被害想定の結果では、現在の中川園、岩科園とも津波の浸水区域から外れていますので、建設場所は、旧中川小学校と旧岩科小学校の2カ所を候補地として考え、幼稚園を旧岩科小学校敷地内に建設することについて、2月28日に教育施設等整備検討委員会の用地の選定について諮問をしました。

また、施設の規模はあくまで標準的な設備等を備えた参考程度ですが、建物はそれぞれ500㎡程度になります。

②「子ども・子育て支援制度についての当町の具体的な取り組み事例と今後の実施計画は」についてであります。

子ども・子育て関連3法案が可決され、平成25年度にニーズ調査を実施し、平成26年度予算に子ども・子育て支援事業計画策定に関する予算を計上したところです。

また、消費税引き上げに対して、子育て世帯を援助するために子育て世帯臨時特例給付金支給事業を平成26年度に実施することになっており、円滑に事業が進むよう準備しているところです。

ご承知のように、この制度の目的は、幼児期の学校教育、保育、子育て支援ニーズを把握し、認定こども園、幼稚園、保育園などの整備計画を進めることですが、松崎町の場合は、保育園の移転建設が喫緊の課題となっておりますので、今から将来像を頭の中に入れながら保育園、幼稚園整備をすることになります。

③「旧三浦幼稚園・旧松崎幼稚園の利用状況と今後の利活用は」についてであります。

旧三浦幼稚園・旧松崎幼稚園とも常時使用されておりませんが、旧三浦幼稚園は選挙の時の投票所として使われています。

今後の利活用につきましては、有効利用を基本に考えておりますが、旧校舎等の利活用については企業や団体等からの申し込みや問い合わせもない状況で、現在のところ具体的な計画はできておりません。

旧幼稚園舎は、津波浸水区域にあたるため、緊急避難として2園に統合したわけですので、利活用については慎重に検討していかなければならないと考えています。

大きい2. 行政について。1. 副町長が空席であるが、今後の対応をどのように考えているのか。

①「県からの就任の考えもあるのかを含めて町長は早急に結論を出すべきではないか」についてであります。

副町長の人事案件につきましては、なにかとご心配をかけておりますが、今定例会の追加議案として上程することで進めておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

○1番（藤井 要君） 一問一答で願ひしたいと思ひます。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○1番（藤井 要君） それでは、再質問を行います。

建設場所とその前に、質問する前に確認しておきますが、これは27年度から町長、建設予定とか、いろいろやりますよね。26年度から計画も入ります。この計画に対して以前町長は統合の・・・、2園から1園の統合の時にですね。24年度に予算を入れて、25年度に実施計画といひますか、着手しますよといひことを言っているわけですよ。それに対して、2月28日、初会合といひんですか、わかりませんけれども、こういうことなんかしまして2年間の空白があると思ひますけれども、私の勘違いでなければ、何回くらいこういう検討会を行っただんですか。2月28日まで。

○町長（齋藤文彦君） これは教育施設等検討委員会ですか。

（藤井議員「そうです」と呼ぶ）

○町長（齋藤文彦君） 今回が初めてでございます。

○1番（藤井 要君） 今回が初めてといひことで、ちょっとおかしいと思ひますよね。それは、町長。

先ほど言ひましたように、町長は、町立幼稚園2園化についての報告といひことで、その時に、平成25年度までに1園化に着手することにつきましては、毎年見直している総合計画実施計画の次年度見直しの際に計画案を盛り込むほか、平成24年度から教育施設等整備検討委員会で検討を始めるよう予算計上していますといひことで、これの日付が24年1月20日なんです。24年の1月20日から、今は26年の3月4日ですよ。2月28日に1回目の会合を行っただ。これは普通では考えられませんか。

それで27年度から、そして、計画を作るだかんだとか言ひわけですけれども、ちょっとおかしいですよ。一般のことだったらこんなことは考えられないと思ひますけれども、その確認と、10年先、15年先の考えですけど、少子化を考えた時に、私はそこで言ひましたけれども、松崎町は、聖和保育園はどうなっているか。

町長、10年か15年先のことを考えて、どうなっていると思ひますか。簡潔にお答えください。

○町長（齋藤文彦君） 最初の質問ですけれども、遅くなったというのは、私は幼稚園、保育園を建てるのもやっぱり一番最初の条件は安全な場所ということをやするわけですけれども、その津波浸水区域というのがまだはっきりしなくて、特に岩科方面がなんかコンピュータが狂っているらしくて、若干おかしいのがありまして、静岡県の方にいろいろ問い合わせたわけですね。

それで、今度第4次被害想定 of 二次報告が12月2日にあって、それではっきりしたものですから、進めているわけでございます。浸水区域がはっきりしないことにはいろいろ皆さんに教育施設等整備検討委員会に説明するにもはっきり町として言えませんので、それで若干遅くなったということでございます。

もう一つは、何でしたか。

○1番（藤井 要君） 町立と聖和保育園の10年後、15年後はどうなっているとお考えですか。

○町長（齋藤文彦君） 10年後、15年後はまだよくわからないわけですけれども、かなり人口が減少していることは間違いないと思います。

○議長（稲葉昭宏君） 藤井君、申し上げます。一問一答ですから、質問は一つにしてください。

○1番（藤井 要君） 私もここで冒頭で言いましたけれども、人口減少は、これは顕著なんですよね。もちろん西伊豆町もそうですけれども、その中で、10年、15年先、松崎の人口というか、幼稚園児の数、5歳きざみに直しましてもかなり100名位になる可能性があるわけですよ。

そうした時に、松崎幼稚園、聖和保育園があるということ、そうした場合には分散される。先ほど言いましたけれども、6対4の比率でいくと、松崎幼稚園の方が少なくなるんですよね。じゃあ、なぜ少なくなるのか。先ほども言いましたけれども、5000人を切っている町村なんかでは3分の2が今でも幼稚園がないと言われているんですよ。1万人を切ると半分くらいの幼稚園がなくなっているよと、そういうふう言われているんですよ。

町長は頭のいい人ですから、なぜそういうふうになっているかわかるとおもいますけれども、町長、そのことに対しては、どういうことでこういうふうになっているんだとお考えですか。

○町長（齋藤文彦君） その幼稚園がなくなっているというのはよくわからないわけですけれども。私はよく言っているとおり、国の元は人、人の元は教育だと思っています。その幼稚園、保育園の教育というのは、町の土台ですから、町が責任を持って、人数が少なくなっ

もやるということで行きます。

○1番（藤井 要君） 私の考えですけれども、人口が少なくなるということは、働く父兄の方というか、働く労働者人口も少なくなる。労働者人口が少なくなるということは、お子さんたちもいないということになると思うんですよ。そして、その方たちがいないということになりますと、じゃあ、いま残っている方たちはどうするかということになると、今の幼稚園、今回、聖和保育園の保育延長がありますよね。幼稚園では今2時で終わりなんですよ。そうしますと、必然的にお母さんたちとか、お父さんたち、そういう父兄の方たちが子どもをみる時間というのは、5時まで働くとか、そういうことになりますと、幼稚園には入れられないわけですよね。だから、私は、人口が少なくなっている市町では幼稚園が少なくなるというふうに解釈します。

町長はわからないと言いましたから、それはそれで追求することはしませんけれども、私はそういうことだと思いますよ。

そして、そういうことになった時に、松崎もどんどん、どんどん人口というか、少子化になってくることは目に見えている。そういうことの中で、じゃあ、いかに10年後、15年後をどうするかということのを問うているわけですよ。

それで、私も、聖和保育園の園長さんと電話も合せて面識も顔合わせもしまして、3回ほどお話を聞きました。それ以外に、聖和保育園に関係している方ともお話をしました。そこで、町長もたぶん1月からこの3月までに聖和保育園の園長さんとお話はしたでしょうけれども、その時に最初のほうは、いま70人から80人で私のところもいっぱいですよと、それ以下になると営業といったらおかしいかもしれませんけれども、苦しいですよということを言っていました。

そして、先ほど言いましたように、いま79人ですよ。26年度に入るのが。そして、1歳、2歳・・・、0歳はいませんが、だいたいこの方たちが20人そこそこいるんですよ。20人位いるんですよ。そうすると、だいたい50人近く、もっと少なくなりますけれども、そのくらい。そうすると、今のところ80何人ですよ。0歳から100人になった場合に、6割が・・・、3歳からになると約9割、ほとんどの方が100パーセント入るとしても聖和と町立と分けなければならない。そうすると、6対4の比率なんかになると、20何人とか、30人位しかいなくなるわけです。町立の中で。

そうした場合に、実際に先ほど言ったように、子育てしてくれる、面倒をみってくれる人がいればいいわけですが、どうしても聖和の方に走ってしまうということになろうかと

思うんですよ。

それで、私は思うんですけども、町長がここで、私は・・・、いま子育て支援もありますね。子ども・子育て支援から、そういうことを考えた場合に、松崎町で0歳から5歳まで面倒をみますよと、そういうことを聖和さんとも話をしたのか。反対に聖和さんにお任せするよと、少ない人数で切磋琢磨しれとかいいですよ。今回建物が27年度ということになっていきますけれども、おそらく27年度は難しいというようなことも聞いております。そうした場合に、今年岩科幼稚園に入る子どもは2人、これは予想ですけども、27年度にも2人、28年度も2人、6人ですよ。そして、3クラスですよ。これは。こういうこともやっぱり考えていかなければならないと思うんですけども、町長、そこら辺を。どうですか、考え方は。

○町長（齋藤文彦君） 聖和保育園の星野さんとも何回も話をしています。星野さんの保育、幼稚園に対する情熱というものがものすごく強くて、町がやれないんだったら、幼稚園もこちらでやりますよというような話はございます。しかし、幼稚園は松崎町がちゃんとやりたいと私は考えております。

それで、いろいろこども保育園みたいな形になれば一番いいでしょうけれども、やっぱり星野さんたちと話をしてみて、今まで民営と町で50年近くやってきたわけですけども、それなりの、不都合はないし、うまくやってきたわけですから、私は、これは継続していききたいと思っています。

それで、やっぱり撤退意思のない社会福祉法人をあんたやめなさいよというようなことはなかなかできないわけで、今までやってきた通りにこの松崎町が民営と町営でやっていくのが私は一番いいのではないかなと思っています。

人口は減少、減少すると言いますけれども、第5次総合計画で7000人を維持するためにがんばろうと一生懸命やっているわけですから、子どもが増えるような施策をとってやっていけばいいのかなと思っているところです。

○1番（藤井 要君） 先ほど岩科幼稚園に松崎園舎ということを言いましたよね。じゃあ、聖和保育園は中川になるんですか。

○町長（齋藤文彦君） いまこの場ではっきり言えないわけですけども、保育園を造る安心こども基金というのが、27年度で終了するということになっていますので、それからこども安心基金がそれから続くかどうかはちょっと国の方でわからないわけですから、その基金を使うにはなるべく早い時期に建てる必要があるなと感じています。

○1番（藤井 要君） この予算書を見ますと、聖和保育園が1億6000万円、これは半分は国県から入るでしょう。町が4分の1、個人が4分の1になろうかと思います。松崎の場合は、これも約1億6000万円とか、1億7000万円位になりますよね。そうすると、単純に計算した場合、これは国県の場合もありますけれども、1億5000万円のやつが2つ建つわけですよね。

私は、こんなことはいらないと思うんですよ。10年後、20年後を考えた場合に、星野さんとの話の中でも、もしやるんでしたら、10年後を考えたりした場合に、もう1億5000万円の建物じゃなくて、10年後にだめになるような建物でもいいじゃないですかと、町も私はそう思います。高い建物を建てる、1億5000万円の建物じゃなくて、いま入る建物、いま中川園の人たちを・・・中川にもってくれば入っちゃいますよね。あの中で。

そして、聖和保育園、これは先ほどから言いますように耐震性がないということで、非常に危ないということで早急に建てなければならない。

私は、聖和の父兄の方、これは町が預けているんですよ。委託しているんですよ。町長。そうした場合に、よくお母さん方が2園化の時に私らも吊るし上げと言ったら言葉はおかしいですけども、よく黙っているなど。

いつ地震が来て壊れるかわからない所に、あそこにある。それ自体が町長、なんかおかしいじゃないですか。もし事故があった時にそれは町の責任ではないかもしれません。でも、道義的責任で早く安心・安全な所にやってやる。それが町長、町の安心、子ども安心のあれじゃないですか。違いますか。回答をお願いします。

○町長（齋藤文彦君） だから、聖和保育園の星野さんと話をしていて、そのこども安心基金というのが27年度で切れると、それからどういうふうにするかわからないということです。なるだけ早く建設するためにいま話し合っているところでございます。場所等は、まだこの場所では言えません。

○1番（藤井 要君） 私は、この考えですけど、先ほど言いましたように、今のパイの中で幼稚園にお金をかけないでもっていくとしたら、岩科園を中川園、今の中にもっていけば入れる。そして、中川小学校と岩科小学校を考えた場合には、岩科小学校の方が安全である。そして、今80人からの人数がいるわけですよ。そしたら、岩科小学校を改築なんかして、当分の間しのげないのか。私はそう思うんですよ。それから、10年後とかに、人口の減少の中で考えていけばいいんじゃないかならうか。

そして、お互いにいろいろなことを考えて、そうすれば、これは一番お金を使わないで済

む方法じゃないですか。改築資金とか、それはかかると思いますけれども、その考えはどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） いろいろ考えたわけですよ。私は、その幼稚園4園が2園になって、2園を1園化する時には、私なりの希望がありまして、やっぱり安全な地域に建てる。そして環境が優れている。そして、補助金が十分に使える。それと、私は新築でいきたいと、それに松崎のなんと言いますか、町を見て、賑わいを考えてということで、私は、幼稚園は岩科小学校校庭の所がいいのではないかなと考えているところでございます。

それで、その幼稚園を中川の方にもっていくということになりますと、あそこは健全な建物で、新築というのが非常に補助金が付きにくいということがありまして、いろいろ考えた末、私は幼稚園は岩科の方がいいのではないかな。あの環境で子どもを育てるのが一番いいのではないかなと思っているところでございます。

○1番（藤井 要君） 私は、先ほどから言いましたように、1億5000万円ずつ、片方は国県から出るということはちょっと除いてもらって、今そういうお金を使う必要があるのか、今使えるものは使っていったらどうかというようなことで言っているんですよ。そういう無駄なお金を使う必要があるのかな。

そして、またあえて言えば、先ほども言ったか、ちょっとあれですけども、給食センターみたいなものも建てなければならない。これだって3億いくらの予算が入りますよね。それもまた補助金があるかと思えますけれども、どんどん、どんどん人口が減少、少なくなる。子どもたちが少なくなる。これは西伊豆町との合併の関係だっているいろいろな出てくると思うんですよ。私は。

そうした時に、やっぱり西伊豆町と松崎町と、合併はまだ先にしたとしても、統合できるものはどんどん統合してやっていくべきじゃないかと、それが町民に対するサービスだと私は思いますよ。

ある時にはどんどん使って・・・、もう少し経ったら質問しますけれども、三浦小学校、中川小学校、そういうのを、いま何を使っている。幼稚園の・・・、先ほど言いましたけれども、選挙の投票の時だけ三浦を使っている。そのような状態がまた新しく建てたってできる可能性があるんですよ。賢いと言ったらおかしいですけども、良い町長だったら、そのくらい、10年、20年位の先を考えてやるのが町民のためのサービスじゃないですか。もう一度お願いします。

○町長（齋藤文彦君） いろいろ言いますけれども、やっぱり幼稚園の建設というのは、私は

いくらお金をかけてもいいなと思っていますよ。

それで、子どもの人数が減るということはありますけれども、これは松崎町が本当にお金をかけて建てる必要のある建物だと思っていますので、ちゃんとしたやつを建てたいなと思っていますところですよ。

- 1 番（藤井 要君） 議論がかみ合わない面もありますけれども、それじゃあ、私だって子育て支援ということで、これから0歳からやらなければならない時代がいま来ているわけですよ。ですから、幼保一体型とか認定こども園とかが出てきているわけですので、そういう点を考えると、先ほど500㎡ですか、そういうのを建てるということになりますと、これは2つ、聖和さんはもっと大きいのかちょっとわかりませんが、そういう時代を考えた政策をやってもらいたい。

そして、あとですね。例えば、保育園がもうやれませんかと言った時には、松崎幼稚園が保育と合わせてやらなければならない時が来るかもわからないわけですよ。そういうことを考えた時に、今の幼稚園の先生方で保育の資格を持っている方は何人位いるんですか。

- 教育委員会事務局長（石田正志君） ご質問の現在の幼稚園教諭の保育士の資格の人数でございしますが、現在8人幼稚園教諭がおります。そのうち、6人の方が保育士の資格を既に所持しております。年齢的には、年長者の方が持っていなくて、比較的若い方、それ以下の若い方が所持しております。

- 1 番（藤井 要君） 今の課長の言葉を聞いて、非常に安心しましたけれども、8人中6人が持っている、星野さんが「明日、やだよ」と言っても松崎町が引き受けるような一応状態と言っても、人数の関係がありますから、無理かもしれませんが、安心いたしました。

でもね、町長、教育にお金を使う、これはいいことだと思いますよ。未来を担う子どもたち・・・、でも、町の財政のことを考えたりとか、これからの西伊豆町との関係を考えたりとか、やっぱりこれは町長、もう少しお考えになって、いま使えるものは使う、無理に壊す必要はないじゃないですか。基金も2億からありますよね。それで、これをそのまま使うことになると、町民の方が基金をなぜ補助金がもらえるのに使うんだということもありますから、それはそれでわかります。でも、町長、本当に将来を考えて名町長になるか、またあそこで変な箱ものを建てた町長になるか、もう少し考えて、もう少し使えるものは使ってください。そういうことでお願いしたいと思います。

じゃあ、箱ものの関係と言ったらおかしいですけども、いま子ども・子育ての関係で、

私は先ほど先生のOBによる寺子屋とか、健康診断時に対する読み聞かせ、また、学校が終わったあと、保育の資格を持っていると、そういうのがあるかもしれませんけれども、2時で終わった方たちを図書館とか、学校の空いている所、児童館という所で面倒をみてくれる。そのような方策とかは考えていないですか。

先ほどは、例えば、お金を使っていま計画中だということでしたけれども、もっと具体的にこのような考えがあるんですよということをお聞かせ願えればありがたいと思いますけれども。

○町長（齋藤文彦君） 足りないところは課長に答えてもらいますけれども、先ほど申したとおり、関連法案が可決されて平成25年度にニーズ調査をして、26年度に子ども・子育て事業計画策定に関する予算を計上したところで、これからどういうふうにするかということが出てくるわけですが、いま子どもに対するいろいろなサービス状況というのがあるんですけれども、たくさんやっています。出産祝い支給事業から保育事業、母子家庭医療助成制度とほとんど各周辺の市町に負けなくらいたくさんやっていることがございます。

それだから、今度のこの策定に関する中でいろいろなこれに対する新しいことが出てくると思いますので、それについてはちょっと課長の方から話をしてもらいます。

○健康福祉課長（高木和彦君） 25年度に実施しました子ども・子育てのアンケート、これを今まとめているわけなんですけれども、この内容によって今後のやるべきことを決めていきたいと思います。

メニューの中で、さっきの保育園関係なんかも出てきますけれども、例えば、6人から19人の小さい保育所を作るとか、そういうメニューなんかもありますし、また、放課後クラブのメニューですとか、乳児を預かる施設ですとか、いろいろなメニューがこの子ども・子育て制度の全体のメニューにいろいろあります。それにつきまして、今後26年度にどんなものが必要か、皆さんと検討していく形になります。

まだ集計途中ですから、数字はちょっと動くんですけども、やはり松崎町の子どもを持っている方の意識調査をしますと、松崎町の子育て政策に対して十分満足しているという結果はありません。そこらも踏まえてどういうところが必要なのか、例えば、意見の中では、児童遊園地が欲しいとかといういろいろな意見なんかもありますので、これは26年度にこちらのニーズ調査の結果を基に検討をしていきたいと思います。

○1番（藤井 要君） まだ具体的な回答が出てきませんから、しっかりとまたこの次の議会とか、そういう時には出せるような、そういうことでやってもらいたいと思います。

町長、ちょっと1点先ほど忘れたんですけれども、これは予定だと岩科園が28年度で、2・2・2で6人の予定なんですよね。そうした時に、これは私は議員になる前に中川幼稚園は4人だったんですよ。先生が2人。こういうことを考えた時に、町長、岩科園はそのまま建物が建たないとしたら、このままの状態で行いますか。どう考えますか。

○町長（齋藤文彦君） それはちょっと内部で検討してみたいと思いますけれども、そのまま続けるような形になると思います。

○1番（藤井 要君） 町長、このくらい即答できないですか。考えを。内部で検討する・・・。4人のところに、これは4人というと、1・1・2かも知れません。3歳児が1人、4歳児が1人、5歳児が2人ということになるかもしれないんですけれども、普通、私が町長でしたら、役場の職員に「お前朝、時間になったら、中川園に行って、そして松崎幼稚園に連れて来なさいよ」と一緒にもう合同でやると、2・2・2ということになれば、これは松崎だとか一つの中に入れるべきじゃないですか。そのまままた幼稚園の先生3人でいくんですか。これも効率的じゃないと思いますよ。お金のことを言っただけなんですから、言いませんけれども、そうしたら、そのことを違う方に振り分けたりとかもできますよね。そういうことを町長、内部で検討します・・・、このくらい町長、自分の独断でやらせたらどうですか。

町長はそういう考えですけれども、教育長はどう思いますか。町長の考えに沿った考えになろうかと思いますけれども。

○教育長（藤池清信君） 一つそういう28年度・・・、議員がおっしゃるように6人に減ってしまうという、これは確かに一番のこれはやはり国、県の方から出された浸水域がずっと早くに出るのを期待していたわけなんですけど、去年の6月に出て、それから被害想定も11月になってしまったものですから、それで町長の方から諮問をかけるのを先月の28日というふうになってずっと遅れてきたことが一つの大きな・・・、もっと本当は早くにすべて1園化に進みたかったわけなんですけれども、ただ、28年度には、その辺が1園化についてのめどが立つようにこれはしっかりやっていかなければならないなと思っております。

○1番（藤井 要君） 役柄ですね、しっかりとした回答は得られないことはわかっております。そういうことで、1園化に向けてなるべく町民に負担をかけない、将来に負担をかけないということでやってもらいたいと思います。

じゃあ、三浦、松崎園の利用状況を先ほど聞きましたけれども、三浦園が選挙用にしか使っていないというようなことなんですけれども、私が思うには、もっと効率を上げるとかという

ことで、管理の関係もありますけれども、例えば、老人・・・、そういう何だかサロンとか、何々女性の会のサロンとか、そういうような方法はちょっと無理なんですかね。もっと利用してもらおう。あそこは空いていて、管理だけは電気料だってもちろんかかります。いろいろな固定の関係はかかるわけですね。そういうことを考えて、もっと利活用できないんですかね。そういうことは全然考えてないですか。

○町長（齋藤文彦君） どういうように使うかですけれども、石部の皆さんといろいろ話しをするわけですが、なかなか良い案が出てこないのが現状でございまして、それは、また言われますけれども、内部でうまく使えるような方法を検討してみたいと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。時間は延長しますか。

○1番（藤井 要君） 延長を。

○議長（稲葉昭宏君） 5分延長いたします。

○1番（藤井 要君） 廃校の関係ですが、これはどこも困っているんですね。でもやっと動き出したという、国も動き出したりとかしていますし、南伊豆なんていうのは、これは端的に、三坂小学校ですか、そういうようなところに新しいものというか、営業用のというんですか、製造業みたいな人たちが来たりとかがありますし、伊豆市で8の賃貸借契約なんていうのが、これは大東小跡地にナチュラルキッチンなんていうのもあるわけですよ。

そういうこともいろいろ考えてもらいたい。私は前にいろいろ若い芸術家なんて、そんな話もしたこともあります。

町長、いつも、先ほども内部ですが、2年間内部、内部で考える、いっぱいこんなになりますよ。内部。やっぱりスピード感をもってやってくださいよ。そういうことでお願いしたいと思いますしね。

じゃあ、松崎園はいま何も使っていないんですか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 現在松崎園は何も使っておりません。

○1番（藤井 要君） 内部で検討中でしょうけれども、なんか使う予定とかはありませんか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 廃園の園舎ですから、教育委員会としましては、浸水区域ということもありますので、使う予定は現在ございません。

○1番（藤井 要君） じゃあ、管理は鍵をかけてそのままになっているような状況ということではよろしいんですね。

また検討して・・・、もったいないですよ。いつ来るかわからない地震に対して安全を期

しながら、有効に使ってもらうのが、例えば、何々サークルとかそういう会合を、昼間の場合でしたら、そういうことも考えてやってもらいたい。老人を元気にする、福祉の関係とか、そういう子どもたちの遊び場だっていいじゃないですか。そういうことでお願いしたいと思います。

あとは、いま言った中川、三浦小学校、これは利用はどうなっていますか。今後の、併せて。去年、もう1年経つんですけれども、検討しますと、いま検討しているというようなことで回答を得られなかったんですけれども、いまどう考えていますか。1年経ちましたけれども。

○教育委員会事務局長（石田正志君） こちらも廃校ということで、本来教育施設ではなくなっているわけですが、管理が教育委員会ですが、利用は岩科、三浦の校舎についても利用はされておられません。ただ管理のみです。中川は一部幼稚園の遊戯室代わりで一部多目的施設、図書室を使っているような状況で、それから、中川小学校は地区サロンですね。中川の地区サロンが使われております。そのような利用状況です。

ごめんなさい。もう一つ、岩科小学校につきましては、まゆ工房というグループがありまして、機織りの方々、そちらが一部を使っているような状況でございます。

○1番（藤井 要君） 災害も心配でありますけれども、有効利用ということで、どんどんとまた考えてやってもらいたいと思います。

行政についてということで、副町長が空席であります。これは、いま県下、西伊豆では教育長が県から今度は出向しますよね。ということを見ました。

うちの方も先ほど言いましたけれども、県からというような匂いがプンプンとしているわけですが、町長は県から呼ぶ時に、どういうメリットがおありなのか。また、デメリットはどう考えているのか、そこら辺をお聞かせ願えればと思いますけれども。

○町長（齋藤文彦君） 私は2年位前から副町長のことをずっと考えていまして、県の方の幹部と話をする時に、これから少子高齢化に向かって、県と町との連携を強化する必要があるのではないかというような話がございまして、私はやっぱり県とのパイプを太くするためにも県からというようなことを考えていました。

また、もう一つは、よく稲葉議員から、いまの議長ですけれども、町長が花とロマンのふる里、平成の花とロマンのふる里ということを言うと、役場の職員がマンネリ化して、以前やってきたことを踏襲すればいいのではないかなというようなことがあって、新しい風を吹かせるためにもやっぱり新しい所から来た方がいいのではないかなと思って、県の方をお願い

に行ったところでございます。

それで、こんなことを言うとあれですけども、ある本を読んでいたたら、魚礁を作るとなぜ魚が集まるかという話がございまして、魚礁を作ると海流の流れが変わって、そこにたくさんのプランクトンが集まって、それに魚が集まるというような話をして、こういうのは総合するとこういうことだなと、県の方から来てもらって新しい風を少し吹いてもらって、やっぱり市内にも緊張感を入れてもらって、松崎を活性化させていきたいと。

それで、「日本で最も美しい村」連合のスタートをするわけですから、なんか新しい実が出てくればいいかなと思ってお願いしたところであります。これが長所だと思います。

短所としては、やっぱり松崎のことを精通していないわけですから、なかなかいろいろのことがあると思うんですけども、それは中で話し合っていけば、それなりのことができるのではないかなと私は思っています。

○1番（藤井 要君） デメリットの方はまだまだちょっとあれでしたけれども、新しい風を吹かせるということで、私も賛成でございます。なるべく県からの人が来てくれて立派に務めあげて、そして、やってくれるのが一番いいなと思っていますのでね。ぜひともほかの議員さんたちも今回の議案があるわけですけども、賛成してもらってやってもらいたいなと思っています。

ちょっと先に戻りますけれども、確認ですけども、じゃあ、幼稚園は岩科に、そして、聖和保育園はまだわからないよということですよ。でも、今の所には・・・、園長先生も言いましたけれども、難しいということになりますと、先ほど、いま町のもので空いているのは中川園しか私の頭の中には思い浮かばないんですけども、中川という答えは出てこないということは、なんかあるんですか。中川の方に県の警察が来るとか、そんなようなお考えもあるんですか。ちょっとそこら辺を。

○町長（齋藤文彦君） そのようなところは全然考えておりません。ただ、私は、教育委員会の方に諮問で岩科小学校の跡地ということを行ったわけですけども、それからこの教育施設整備検討委員会の中でいろいろな意見が出てくると思います。

ただ、それを先に、町の考えをちゃんと言わないことにはなかなか先に進まないと思いましたので、諮問したわけでございます。

それが、これから委員会の中でどのような話が出て、どのような感じになっていくのか、よくわかりませんが、教育施設等整備検討委員会の中でいろいろ煮詰めていくことになると思います。ただ、町としては、私は岩科のあそこが一番環境に適しているのではない

かなと私は思っているところでございます。

○1 番（藤井 要君） それで、中川の方は何もなくなるということですよ。しっかりした今の中川幼稚園は残るけれども、誰も使う人がいないということでもいいわけですよ。

そういうことになりますよ。中川の方は、建物は地震に対しても頑丈な建物だから、県からの援助もない、そして、警察も来る予定も今のところなんにもないということは、もったいないと、マータイさんですよ。そういうことですよ。町長。

○町長（齋藤文彦君） 私はさっき地域の賑わいということを使ったものですから、岩科幼稚園がいったら・・・、考えているわけですよ。ただ、この場合で、中川へうんぬんということはまだまだちょっと言えませんので、ちょっと控えさせていただきますけれど、そういうことは十分に考えています。

○1 番（藤井 要君） 最後になりましたので、まとめたいと思いますけれども、先ほどからいろいろ私も少子化の関係を含めて言っておりますけれども、近隣の市町でも少子化対策が大きな問題になっているわけですよ。そういうことを考えて、数年先、松崎小学校は、小学校だから6 学年あるわけですが、それなりの生徒がいるわけですよ。例えば、1 クラス20 人になっても120 人がいるわけですが、これが中学になりますと、3 クラスになりますよね。そうした場合に、20 人ということはないにしても、20 人、20 人といったら60 人しかいないわけですよ。やっぱりそういうことを考えて、近隣の首長さんあたりと、先ほど言いましたけれども、合併じゃないですけども、統合できるものは統合する。

それで、先ほどの給食の関係、そういうのも3 億どんかいかかるということになれば、西伊豆町と一緒にやる。私は、一番考えているのは、一番ネックになるのが外部だと思うんですよ。地震かなんかで崩れた場合に松崎町と西伊豆町、給食とかが片一方は給食が食べられて、1 カ月もどんかいても食べられないよというような状態が心配される。そういうのになると、とりあえずは松崎、西伊豆もありますけれども、でも、総合的なことを考えたら・・・、そして、今回教育長、そして今回副町長も来るであろうということを考えますと・・・。

○議長（稲葉昭宏君） 藤井君、時間です。

○1 番（藤井 要君） 県のパイプのこともあります。一生懸命4 人で考えてやってもらいたいなと、これは本当の町民からもそういうお願いが強いと思いますので、そういうことを町長にお願いしまして、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で藤井要君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

(午前 1 0 時 5 1 分)

---